一般社団法人日本地方競馬馬主振興協会

令和７年新年懇親会・講演会

―講演―

ダート三冠等の新体系総括と新年度の展望

NAR地方競馬全国協会

企画担当理事　相川 貴志

交流が進む前の芝・ダートの状況について

芝

- ＪＲＡの競走＝日本の競走
- ＪＲＡの番組に従ってチャンピオンが誕生
- 1984年(昭和59年)のグレード制導入以降、マイルのＧⅠ競走などカテゴリーごとの体系整備

メディアによる全国的な取扱
全国のお客様の関心が集まる

ダート

- 各地区それぞれの競走体系
- その地区のチャンピオンは生まれても、日本のチャンピオンは生まれない
(県・地区大会はあっても全国大会がない)
- 地区の限られた在厩頭数がベースとなり、距離の多様化も難しい

メディアの取扱は地区限定
お客様の関心も地区限定

芝中心の競馬観
(お客様・メディア・生産者)

「ダートは芝の補完」
「芝はメジャー、ダートはマイナー」

交流開始後の体系整備について

過去

1995年、交流元年とその意義

- 芝とダートを両輪とした日本の競馬という理念
  (ダート競走格付委員会)
- 優れた馬が適性に応じた競走で評価を得る

- 地方競馬から様々な有力馬が登場
  アブクマポーロ、メイセイオペラ、
  トーホウエンペラー、アジュディミツオー、
  フリオーソ　など

交流開始以降…

- ダート競走の地位は徐々に向上するも、
  芝中心の価値観は依然として根強い

- 近年になってダート競走に対する評価が高まる
  マルシュロレーヌ、ウシュバテソーロ、パンサラッサが海外GⅠ制覇

追い風

新しい競走体系

- ダート三冠の創設
- カテゴリーごとに頂点競走を明確に打ち出し、
  かつ前哨戦(ローテーション)を整備
- 「中央か地方か」ではなく「芝かダートか」
  (改めて「芝とダートを両輪とした日本の競馬」」
- ダート競走は地方競馬が主体となって推進
- 国際格付けの取得を目標に掲げる

未来

競走体系トピックス 年表

西暦 (年)	トピック
1973	地方競馬招待競走を開始
1974	中央競馬招待競走を開始 (1985年まで地方・中央隔年で招待競走を実施)
1986	隔年の招待競走に替え、帝王賞(大井)、 産経オールカマー(中山)を指定交流競走として実施
1995	**交流元年**
1996	ダート競走格付け委員会設立 (1997年4月から格付けを実施)
1998	ダート競走格付け委員会に格付された競走が、 国際せり名簿基準委員会のブックレットに掲載
1999	メイセイオペラ　フェブラリーステークス制覇
2001	**JBC創設**

西暦 (年)	トピック
2005	アジュディミツオー　ドバイワールドカップ6着
2007	日本がパートⅠ国に昇格
2008	日本グレード格付け管理委員会発足 (2009年の競走から格付け実施)
2011	**東京大賞典が国際格付け(GⅠ)**
2021	**マルシュロレーヌ　BCディスタフ制覇**
2022.6	**ダート三冠発表**
2022.11	**新体系発表**
2023	**2歳競走から新体系開始** パンサラッサ　サウジカップ制覇 ウシュバテソーロ　ドバイワールドカップ制覇 **マンダリンヒーロー　サンタアニタダービー2着**
2024	**新体系本格実施** イグナイター　ドバイゴールデンシャヒーン5着 フォーエバーヤング　サウジダービー制覇、UAEダービー制覇 ケンタッキーダービー3着、BCクラシック3着